

第 2 回若葉区地域福祉計画推進協議会 社協地区部会分科会議事録

並木 分科会を分けて開催する運びとなったが、新たに 2 名のメンバーが追加となったので、挨拶をお願いしたい。

新任 2 名（廣川・大島両委員）挨拶

並木 本日のスケジュールと資料の確認

並木 これから地域福祉を行うにあたり、担い手が不足しており、今後は自治会と協力しながら活動していきたい。

そこで、各地区部会の現状、活動報告をしていただきたい。

今回は加曽利地区部会をお願いしているが、今後の予定で各地区部会（別紙資料のとおり）にも活動報告をしていただきたい。

区の計画の中で見守りをメインに活動していきたいと考えているが、地域性などを考慮して、少しずつでも、社協も協力をし活動していきたい。

これから、社協としてもどのように活動していくかを考えていきたいので、各地区部会の協力をお願いします。

武 並木所長の話に補足するが、社協がこれから何をすればいいのか、分科会でディスカッションできればいいのでは。

地域福祉に関してどのように展開していけばいいのか考えてみたい。

会議は年 4 回しかないので、運営企画委員会を含めると年 6 回。

10 月の最後と、12 月に 1 回臨時で開催し、協議できれば良いのでは。

（加曽利地区部会での活動報告説明）

資料 6

①4 月 23 日に発行した新聞（広報誌）

②常任委員会を年 5 回開催し各自治会へ周知。

③社協会費（平成 22 年度）報告 ※加曽利町内会は 351 世帯ではなく、約 750 世帯

④現状の活動報告

強調したいのは、地域福祉を活動するにあたり、毎年スローガンを掲げる。

- ・ふれあい給食は今後力を入れて実施。
- ・散歩クラブは今年度（23 年度）より実施。
- ・高齢者向けの「健康講和集会」を実施。特定の医師を確保し話を聞くだけでなく、Q&A 方式で実施。
- ・寿クラブへの慰問は月一回実施。11 月には、幼稚園児と交流。
- ・子育てサロンはやっと軌道に乗ったところ（約年 5 回実施）
全体の参加者はボランティア、関係者含め述べ 1500 人が関わっている。

資料 7 平成 22 年度会計報告

資料 8 役員の構成

今後、福祉活動推進委員、ボランティアがメインで活動することが必要。

加曽利地区部会は新興住宅と、昔からの住宅が混在しているが、あまり核家族化は進んでおらず、近所づきあいが密で強い絆がある。しかしながら、超高齢化はすすんでおり、地域福祉の在り方を今後考える必要がある。

資金確保に関しては、社協の考えに皆が賛同しなければ資金集めは限界がある。

資料 9 支え合い体制づくり事業計画の説明

今後の地区部会の活動の中で、各自治会同士の話し合いの場を設けることが必要で、それぞれの考えがあるので、各自治会が行う活動について地区部会は口や手を出さずにサポートをしていくことが必要。

並木 若葉区は高齢化が進んでおり、今後いかに活動ができるのかを考える必要がある。目的が同じであっても、地域性や様々な問題があるので、社協はもちろん、その他の福祉施設と共同し活動出来れば良いのでは。

今後、他の地区部会の話聞きながら、方向性を決めていければ。

10・25 13:30～ (V1) 臨時 坂月・若松・都賀・小倉

11・26 9:30～ 推進協 桜木・東南・大宮

12・6 13:30～ (V1) 臨時 白井・西北・貝塚・更科・みつわ

資料については、社協職員がヒアリングを行いながら、地区部会関係者と協議のうえ作成。

第2回若葉区地域福祉計画推進協議会 全体会議事録

武 新任委員の紹介

大島 4月から地区部会長の任を受けたが、新たな活動を推進できれば良いと思っている。

廣川 まだ地区部会は新しい会で、モノレールみつわ台駅を拠点に活動している。
今後は地に足をつけた活動をしていければよいと思う。

武 地区部会関係者はこれで12となり、残りは1部会となっている。

事例紹介

磯部地区部会 福祉協力委員ネットワーク委員会 中村 宏 (資料参考)

中村 21年に創設した福祉協力ネットワーク委員会について説明する。

※プロジェクターにて磯部地区での事例紹介。内容については資料10の通り。

武 ありがとうございます。若葉区においてもこのような活動が出来ればと考えている。

山内 高齢・独居の老人の対応については考えなければならない事項であると思う。

大嶋 磯辺には28の自治会があるが、28の自治会全部が参加しているのか？

中村 一自治会を除いては全部の自治会が活動している。

大嶋 独自で活動している自治会の資金はどうしているのか。

中村 社協の予算で賄っている。

大嶋 28の自治会へ等分して配布しているのか。

中村 そのような形ではない。

本来は、各住民から頂いた会費を等分に利用していければよいのだが、なかなかうまくできていない。

武 ありがとうございます。

引き続き各分科会の報告をお願いします。

大嶋 自治会分科会を13名で実施しているが、第2期地域福祉計画の初年度である今年度は、対象自治会を選定して訪問活動を行おうと考えている。

その内容は、分科会で班分けをし、200ある自治会の中から選定して訪問活動を行い、計画の周知徹底と地域福祉の推進を図っていく。

訪問団の編成は、まず前期については、すでに支え合い活動を立ち上げた金子・柳原両委員と武委員長、私、大嶋の4人を中心に、自治会分科会から1名、行政から2名の全部で5名程度のメンバーで訪問したい。

訪問対象の自治会は、6月に地域振興課が実施したアンケートに答えていただいた自治会へ訪問活動(約20団体)を予定している。

先発隊の実施結果を踏まえ、訪問活動マニュアルなどを作成し、今後の活動に生かしていきたい。

武 続いて社協地区部会分科会の報告をさせていただく。社協の分科会を今後どのよ

うな活動方法で行っていけばよいか、各地区部会の活動報告を行っていく。日程については上記を参照。

内容については、構成、活動内容、見守りは行っているか、地域福祉活動をこれからどのように考え、展開していくのかを聞きたい。

本日、加曽利地区部会を例にした活動を報告したが、社協とディスカッションし、内容を詰め、資料作成を進める。

各地区部会が現在進めている計画を次回の会議の際に報告してほしい。

各分科会が共同して活動していかなければならない。

飯田 若葉区基本計画概要について資料 11 を参照

24 年度～33 年度の 10 年を目途にしている。

24 年から 3 年間の実施計画を現在作成している。

山口 千葉市地域福祉計画の概要説明（別紙資料参照）

武 資料 4 の中で、疑問・問題等が発生したら、遠慮せずに社協・行政にお問い合わせいただきたい。